

世界を舞台に活躍する四人が織りなす、豊かな室内楽。
昨年ミュンヘンで好評を博した共演が、
ついに東京で実現します。

ヴィオラ

マルクス・フレック

ヴァイオリン

鈴木舞

ミュンヘンの 至宝、 東京へ

ヴァイオリン

インゴルフ・トゥルバン

ピアノ

サヴァリツシュ朋子

INCOLF TURBAN / VIOLIN MAI SUZUKI / VIOLIN MARKUS FLECK / VIOLA TOMOKO SAWALLISCH / PIANOFORTE

Program

モシュコフスキ：2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 ト短調 作品 71

Moritz Moszkowski: Suite for Two Violins and Piano in G minor, Op. 71

ドヴォルザーク：弦楽三重奏曲 八長調 作品 74 《テルツェット》

Antonín Dvořák: Terzetto in C major, Op. 74

シューベルト：華麗なるロンド 口短調 D 895 作品 70 ほか

Franz Schubert: Rondo brillant in B minor, D 895, Op. 70 etc.

2026 5.28 木

19:00 開演 (18:30 開場)

赤坂ストラドホール (全47席)

〒107-0052 東京都港区赤坂 6-6-3 赤坂 IDEA ビル 地下1階

東京メトロ千代田線「赤坂駅」より徒歩3分

南北線 / 銀座線「溜池山王駅」より徒歩9分

Ticket

全自由席 ¥10,000

ドイツからの素敵なおみやげ付き

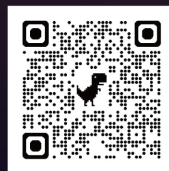
◆ご予約・お問い合わせ

hommasama@gmail.com

☎ 090 - 6304 - 4476

QRコードからも

お申し込みいただけます。



昨年ミュンヘンで三公演を共にし、好評を得たメンバーによる東京公演。

セルジュ・チュリビダツケやロリン・マゼールの薫陶を受け、
世界の檜舞台で活躍しながら自在に音楽を紡ぐヴァイオリニスト、インゴルフ・トゥルバン。

トゥルバンのもとで研鑽を重ね、国際舞台で歩みを重ねてきた鈴木舞。

名門カザル・クアルテットのメンバーとして国際的評価を築き、
グラミー賞にもノミネートされたヴィオリスト、マルクス・フレック。

そして、欧州を拠点に、精緻でしなやかな音楽づくりで信頼を集めるピアニスト、サヴァリッシュ朋子。
本場ドイツの室内楽の豊かさと奥行きを、東京でお聴きいただける特別な機会です。



インゴルフ・トゥルバン (ヴァイオリン)

ミュンヘンに生まれ、12歳でウィーン・フィル元コンサートマスター、ゲルハルト・ヘツェルのクラスに入門。その後アメリカにてイェンツ・エラマンおよびドロシー・ディレイに師事し、国際的な演奏家としての基盤を築く。21歳の若さでチュリビダツケ率いるミュンヘン・フィルの第一コンサートマスターに就任し、翌年には同団との共演でソリストとしてデビュー、その演奏が高く評価された。1988年ソリストとしての国際的キャリアを本格的に開始後ウィーン楽友協会ホールやミラノ・スカラ座をはじめとする世界の主要ホールでチュリビダツケ、デュトワ、マゼール、メータ、メニューイン、佐渡裕、他と共演。日本にも度々訪れ、公演やマスタークラスを行っている。レパートリーはバロックから現代音楽まで幅広く、なかでもニコロ・パガニーニ作品への深い造詣で知られる。録音 CD50枚以上に及ぶ。現在ミュンヘン音楽・演劇大学教授として後進の育成にも力を注ぎ、門下からは多くの国際コンクール受賞者を輩出している。ヘンレ社などの出版社で楽譜監修を務めるなど、教育者としても高い評価を得ている。



鈴木舞 (ヴァイオリン)

東京藝術大学附属高校、同大学卒業後、ローザンス、ザルツブルグ、ミュンヘンで研鑽を積み、ドイツ国家演奏家資格を取得。ヴァーツラフ・フムル国際(クロアチア)優勝、オルフェウス室内楽(スイス)優勝など、数々の国際コンクールで入賞、優勝を重ねる。ソリストとしてヨーロッパ、南米、中央・東アジアなど世界各地でツアーを行い、飯森範親、小林研一郎、ヨルマ・バスラ各氏をはじめ著名指揮者のもとで読売日響、東京交響楽団、フィンランド・クオビオ響、スイス・ローザンス室内管、チェコ・モラヴィアフィルなどと共演している。皇居桃華楽堂での御前演奏やシャネル・ビッグマリオン・デイズ・アーティストに選出、大使館主催行事、万博等での演奏を通じて国際親善にも貢献。録音では貫川風、山田和樹との共演でCD『Mai favorite』、福原彰美とのデュオで『翼』をリリース。メディア出演はNHK-FM「リサイタル・パッショ」など。使用楽器は(株) atsumariを通じて貸与されている1682年製 Nicolo Amati "Grand Amati" で、ストラディバリウスを含む三大銘器のうちの一つ。



マルクス・フレック (ヴィオラ)

アウクスブルクに生まれ、アメリカへの留学を経てアウクスブルク音楽院でリディア・ドゥブルフスカヤ、チューリッヒ/ヴァンタートゥールにてルドルフ・コールマンに師事。1995年に結成したカザル・クアルテットは国際的に高く評価され、ECHO KLASSIK 賞、ドイツ・レコード批評家賞、ディアバゾン・ドール賞を受賞し、グラミー賞にもノミネートされた。世界各地で約2000公演を行い、共演者にはマルタ・アルゲリッチ、ファジル・サイ、ゴータエ・カビュソン、カティア・ブニアティシュヴィリ、クリストフ・ブレガルディエン、クレメンス・ハーゲンなど世界的演奏家が名を連ねる。オーケストラではバイエルン室内フィルハーモニー、シュトゥットガルト・バロックオーケストラ等でコンサートマスター、首席奏者として客演。レパートリーは初期バロックから現代音楽、ジャンルを超えた作品まで多岐にわたる。ヴィラ・ムジカ財団(マインツ)、シュトゥットガルト音楽大学、チューリッヒ音楽大学などで講師を務める。また新聞への寄稿、楽譜編集、ラジオ番組への出演など、執筆・メディア領域でも幅広く活動。CHAARTS Chamber Artists 創設メンバー、2010年よりアローザ音楽アカデミー音楽監督。



サヴァリッシュ朋子 (ピアノ)

日本に生まれ、国内のコンクールで数多くの受賞歴を持ち、17歳でウィーン国立音楽大学にてミハエル・クリスト教授に師事。翌18歳にはワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとの共演によるチャイコフスキー《ピアノ三重奏曲》が高く評価され、ワルシャワ音楽院へ招かれる。ミュンヘン音楽・演劇大学にてゲルハルト・オピッツ教授のマイスタークラスを首席で修了。ミュンヘン音大在学中にブラームス《ピアノ協奏曲第1番》でのドイツ・デビューを皮切りに、リサイタルシリーズの開催、BMW 東京とのチャリティーコンサート企画など、欧州各地の音楽祭や日本での演奏活動に精力的に取り組む。2015年にはスタインウェイ社より「スタインウェイ・アーティスト」の称号を授与され、国際的に活躍するピアニストとして広く認められている。近年は室内楽にも力を注ぎ、シュテファン・コンツ、エマヌエル・グラーフ、マルクス・ヴォルフ、ウェン＝シン・ヤンらと共演。なかでもインゴルフ・トゥルバンとのデュオでは2026年2月にシューベルト作品全集の録音がリリースされた。現在はミュンヘン近郊在住で、ヴォルフガング・サヴァリッシュ財団日本代表としても活動している。